

飯山の山奥には宝の植物がある

大 平 仁 一*

時々、孫と山へ行き歩く楽しさと自然にふれる嬉しさに心が癒される。そして、新しい植物に出会うのが素晴らしかった。「じっちゃん、これ何というの…」と聞かれるのが嬉しくて山へ行った。最近は高校生なので、行かなくなった。今まで登って調べた素晴らしい植物のことを述べたい。

阿弥陀堂で知られる万仏山へ登ったとき（5年前）に、ベニバナヤマシャクヤクを見た。大岩の上のほうであった。この奥は昔、イヌワシの巣のある。今でも心に残っている。

鍋倉山では、マルバタケブキの群生地を孫と行き、ブナの間を流れる清流（深さ50cm）の透った水は素晴らしく綺麗で、フキの葉で包んで飲んだ。何気なく歩いていたが、そこには、ザゼンソウがたくさんあった。仏炎包が2本あり、葉は大きく花穂は小さかった。孫に指さしてもらい写真をとった。

野々海に友人と行き、苔のある石の川を歩いた。雑木の中を流れるこの川は、水量は少ないが足場が悪く、苔のある清流で私には楽しかった。水温7度で冷たく岩魚がいる。ここは、友人と私の宝にしておく。一時間ほど行くと、それは美しい花に出会ったのである。



ザゼンソウ

イカリソウかと間違えたのですが、ここに写真を載せますので、もし間違いでしたらご一報下さい。よろしくお願いします。

木島平の民家の畔の土手に赤く咲くサクラソウの群生があり、2芽いただき家に植えた。一年目に増えて3年目に26芽になりました。あまりに簡単というかやさしく育てられるので驚いた。

以上、残したい山や植物です。私には宝に見えます。皆さんで大切にしませんか。苔の中の空気は心を美しくしますから。

<大切にしたい植物>

イワウチワ (*Shortia uniflora*), オオタニワタリ (*Asplenium antigum*), ケンボナシ (*Hovvenia dulcis*), クララ (*Sophora flarescens*), キバナノアマナ (*Gagea lutea*), オヤマボクチ (*Synurus pungens*), アブノメ (*Oopatrium iunceum*)

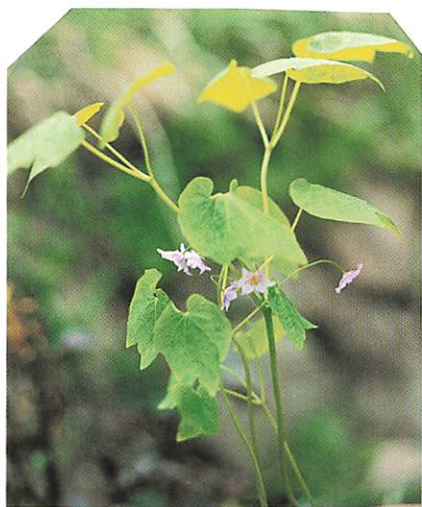
<これから大切にしたい植物>

サクラソウ (*Purimura siedoldii*), トガクシソウ (*Ranzania japonica*), ザゼンソウ (*Symplocarpus renifolius*), ベニバナヤマシャクヤク (*Paeonia obovata*)



孫の指さす所 ザゼンソウ

* 大平仁一 〒389-2322 飯山市瑞穂1166-9



トガクシソウ



トガクシソウ 飯山市にて



サクラソウ



紅花山シャクヤク (北入奥地にて)

善光寺そば打ち名人との出会いから

「牛に引かれて善光寺まわり」と言われるように、皆の知るところであるが、その近くのそば店で40年もつとめて、最近退職した佐藤さんと知り合い、山の植物の話に花を咲かせる日が多くなり、嬉しい日が続きました。

ある日、佐藤さんの話と私の植物好きで、蕎麦の粉や純の粉とはどういうものか？と考えるようになり楽しさが増してきました。そんな時、私が雄山火口 (*Symorus pungens*) やヤマボクチやハバヤマボクチの話をする、と興味深く聞いてくれた。私の家に干した葉がたくさんあることを言ったら、ぜひ欲しいというのであげた。すると、どうしても煮て蕎麦を打ちたい、というので二人でやってみた。3種とも美味しかった。量は後に書くとして、香りも味も素晴らしい。その中に栃の粉を少々入れることに。いっそう苦みがチョコット増し、香りと調和の素晴らしいお蕎麦になり、二人とも顔をあわせニヤッとした。そして自然の素晴らしさに、いま一度驚いた。

ただ、オヤマボクチが少なくなっているのには悲しい。奥志賀にはハバヤマボクチだけだった。秋山

や富倉にはもうほとんどなくなった。

私は、現在、秋山の山田さんにソバの種とオヤマボクチの種を持っていく。山田様、老夫婦に聞くと、もう何十年も同じ種を繰り返して使うのでできが悪いといったのを聞いて、私と妻で持って行った。平成2年の時、おばさんは喜んでくれた。私の孫（現・高校1年）にソバ打ちを教えてくれたのが一番嬉しかった。困に、この秋山で黄アキグミを発見したのもこの地でした。この他、ウメバチソウやイワウメの群生やナツエビネが咲くので美しい。また、山田老人に秋山の地で天然のマイタケの味噌汁は忘れられない。また、いまでも佐藤そば打ち名人との付き合いは欠かせない。毎月届けていただくのが私の楽しみになっています。病におかされた今でも思い出にしている。

今年2006年は、鍋倉のザゼンソウは素晴らしく多く咲いて嬉しかった。友人に連れて行ってもらい楽しい一日でした。病になってから、友人が増えたことも私の宝です。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

ありがとう。



オヤマボクチ



ミソサザイの巣

日陰の苔を好むアズマシログネソウは私の恋人

飯山市の北の山奥に植物調査に行ったときに会った。私の心に素晴らしい響きを与えてくれたのがこの寒川であった。あたりは緑に覆われ、川の音も、私には癒しに聞こえた。足元の水滴も心地よかった。時々、ウグイスの声に自分がここにいることを忘れることでした。

その時、目の前の苔が私に声をかけてくれた。耳を澄ますと呼びかけるものがあった。アズマシログネソウだった。小さくて人目に付きにくいのが、私には素晴らしいものに見えた。「君、君、君」と呼んでいる気がした。すかさず「ハイ」と声を出してしまった。汚れの知らない清流に囲まれ、また汚れの知らない苔に囲まれた君に私は恋してしまった。春の谷間の雪解けの水は、たしかに冷たかった。いつしか私は、“恋人よ”（五輪まゆみ）の歌を口ずさんでいた。今度であつたら、この苔の種類も調べようかなと思った。

あまりに美しい苔を見る日々が続くので、心の中が踊った。世の人間も、このような汚れと欲のない人が増えることを願う。せめて私ひとりでも、と思い、このきれいな沢を後にした。今日は、心ゆくまで自分の心が洗われたので、写真にとり見せたいと思い、アズマシログネソウの気持ちになった。

この素晴らしい清流をながめていると、不自然にも心が洗われる。言葉の出ない私は、病のことを忘れていつしか健康体と思う行動に出た。妻の力を借りて行動をおこした。

清流の草の近くに小さな巣を見つけた。それは、まぎれもなく鶺鴒（ミソサザイ）であつた。かわいい幼鳥が3羽みえた。水苔や草や枯れ草の中にあつた。私は世界で一番小さいと言われる鳥に出会つたことで、とても嬉しかった。しかもこの清流でアズマシログネソウにもあい、一層の喜びであり、体の病も忘れた一日でした。

こんな風景を、いつまでも後生に残したいものです。



アズマシログネソウ

黄色アキグミの自然に触れて

秋の山で珍しい木の実を見つけて生で食べてみた。

味が忘れられなかった。それが「アキグミ」だった。

秋の樺街道を行くと紅葉が美しく、この山へ入る日に日に楽しみが増してきた。行く道には「ウメバチソウ」が咲きその白さに目を奪われた。

「アキグミ」の実を取りたくてやぶの中に入ると色違いのグミがあり、黄色なので変だなと思い一粒食べてみた。赤の粒と同じで大人の味でした。

珍しい植物や実の写真を写した。帰って実は妻が焼酎に浸けていた。敢えてこの実を私は「キイロアキグミ」と呼びたい、もし解かる人がいましたら教えてください。



アキグミ

クララとミヤマシジミと蟻の関係について

飯山の山には、所々にクララが見られる。昔、この植物は、便所の中に入れて虫の殺虫剤として使われていた。その名残であると思う。

ある晴れ日、城ヶ峰へ行ったときに、クララが多くあるのに気づき車を止めてながめていた。一匹のミドリムシに蟻が2匹つきまとっていたので、食べるのかと見てみると、食べるでもなし、クララの葉から下へ下へと蟻と虫がおりていった。その時間、3時間あまりだった。近くへ来た車がピーピーと鳴る。私は邪魔だと思い車を動かした。クララは約1mくらいの背丈であった。美しい蝶の羽になることを夢見て、石の間にいったのを見届け、家に帰った。

それから、一ヶ月、私はここへ通う日が続いた。春の日射しは強かった。6月の今日は素晴らしい心の癒しであった。この林道は、あまり人間の手が入らず、熊が出る話も聞くので少し寂しさもあった。クララは何の魅力もないが、ただ白い花が少し私の気をひく。

ある日、石の近くへ行くと、茶色の蝶の抜け殻の上に（木の上に）ミヤマシジミが美しい羽をひろげたり、閉じたりしていた。小さいけれど、この蝶の美しさと生きる昆虫の生命に驚き、自分もいつまでも妻に頼るのではなく、早く車椅子から自立することを教えられた。

自然の山野沢温泉と花と出会い

里山の好きな私はカメラ片手に毛無山へ登ることにして、野沢の前坂部落から川づたいに歩き登った。一の滝をあがり二の滝から三の滝の間に鎖があり8m位なのであがった。三の滝は大きく崖の右側に祠があり入り口が人の背丈位で「おんべと刀」が祭ってあった。刀は赤く錆びていた。左のほうの沢を登り藪の中をガサゴソと歩き上へ上へと行った。

毛無山の頂上の無線中継所に着いた。そばに路があった。右に左に藪の中を歩き樺の木の中を歩き、鳥の声を聞きながら、いい空気を吸いながら上へ下へと進んだ。暫くするとチシマザサの中に赤いものが見え

たのでそーと近くへ寄ると、うれしい「シラネアオイ」が満開の笑顔で私を迎えてくれた、標高900m地点でした。その花の美しさに惚れ座り込んでしまった。女に惚れる事とおなじ気持ちだった。すばらしい優しい美しさだ。

直ぐ近くの竹やぶにも「シラネアオイ」の一群があった。今ほどすばらしい人生だと思う日がなかった。リュックの水を出して一口一気に飲んだ。一休みして又ブナ林の中を行くとマイズルソウの群生があり、ツバメオモトがあり直ぐソバの山道に沿って歩くと「サンカヨウ」の白い花が迎えてくれた、50m四方位の



サンカヨウ



シラネアオイ

中に300本位が咲き私一人に向かって語りかけていた。近くを山菜取りの人達がいた、何取っているんですかとたずねると「コシアブラ」と答えてくれた。此処に

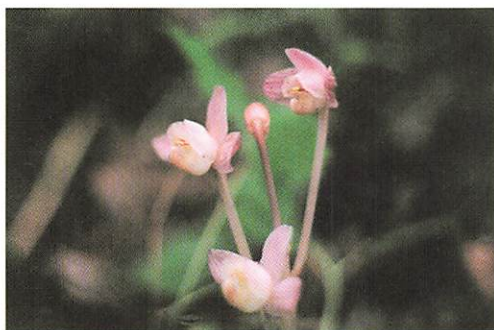
も帰化植物の「セイタカアワダチソウ」が生えていたがまだ花はなかった。ただ一箇所、オオバミゾハウズキの群生を見つけた事だ。

ショウキラン (*Yoania japonica*) と出会って

時々静かな山の中で「ウグイス」の声を聞く。緑の風の香りに癒され、私の体は透明になっていた。心は宙を浮かんでいた。このブナの林は湿度があるのか、木の幹やまわりの墨は、鍋倉のブナ林と違っていた。

奥へ入ると少し暗くなった。藪の中は湿っていた。8月だというのに、この山には少し水たまりがあった。少しまわりをみると、湿った草の土手に淡紅色の「ショウキラン」が咲いていた。私は初めて出会った腐生植物であった。この植物の可愛らしさに見とれた。鱗片は退化している。長さというか高さは20cmくらいあり、全草淡紅色で、私は珍しいのでながめて少し観察してみた。夏だというのに少し涼しかった。6月に北志賀の「ミズバショウ」を見学に行ったとき、「ギンリョウソウ」というかユウレイ草をたくさん見た。が、この「ショウキラン」は初めてなので嬉しかった。

時に葉やブナの間から陽が差し込んでいる。この土



ショウキラン

手には「カメバヒキオコシ」の群生が多く、その先は、「ウサギギク」が平地の湿原で見事に咲き誇っていた。所々に「トリカブト」が紫色のマメのような形で咲いていた。私にはたまらなく好きな自然で心に残る大切な場所である。

北ドブ湿原とは何であったか

カヤの平から歩くこと40分。土手にて「ショウキラン」(*Yoania japonica*)が見えた。腐生植物で本では知っていたが、本物は初めてでした。ピンク色で地面にあり、ギンリョウソウは白ですが、見たときは嬉しかったのでシャッターを切った。20分歩くと、北ドブに着いた。開けた場所は青空ですっきりしていた。たまにトリカブトにあう。もうあたり一面ミズギクで私を迎えてくれた。午後3時、そろそろ帰ろう熊でも出ないうちと思う。ブナは大きく私の心をさわやかにしてくれた。時々、キツツキの音が気になっていた。



ミズギク (北ドブ)

臥竜山（須坂市）は楽しい山

足の運動に行く。今日は臥竜山に行く。山はマツ林で、すごくきれいな山だった。少し坂が続いて、手をついて登った。歩く道はよく整備されていた。上から見ると下は動物園であった。まわりの家がよく見える。遠く長野市まで見えた。ふと目をやると「シシラン」が群生している。こけと一緒に南表であった。葉の裏には孢子嚢群が点々と付いていた。獅子蘭（シシラン）とは珍しい名前を付けてあり、里山登りの楽しさを実感した。下を見下ろすと、池には鴨が100羽近く泳いでいた。この山のマツは独特の枝や形態をしている。今日で5回登ったことになった。



シシラン

ナニワズ

大 平 仁 一

私たちは時々、里山へ健康のために行く。

五月の初め、瑞穂の山へ入るというのは、ある部落の庭に黄色の花の珍しいのが咲いていて、その家の人に聞くと「ナシボウズ」と答えが返ってきた。そんなことは8年も前に聞いてはいたが、つい忘れていた。

今年は、近所の山にあるかと思い、ところかまわず入山した。友人の山なので、鼻歌まじりで杖をついて入った。雑木林の中は、涼しい風が通りすぎた。時々、植物の香りがまじっていた。リスが木から木へと飛び、私たちに心の潤いをくれた。落ち葉の音がうるさい。でも山は楽しい。

今日この頃は、妻も講演がなく、私には楽しい日が続いた。近くに「ウリ」の木が小さい花をつけている。急斜面を登ると、そこに「ナニワズ」が群生して、黄色で咲いていた。妻も大変喜び、ここで腰をおろし、のりむすびを食べることにした。その夜に、この部落

大 平 ユ リ



ナニワズ 飯山市瑞穂にて

の人たちに名前を教えた。

この場をお借りして、写真をのせ、会員の皆さんに見ていただきたい。